

主日の早課の福音經

第一の主日の福音經、マトフェイ百十六端。

彼の時十一の門徒ガリレヤに往きて、イイススの彼等に命ぜし山に至り、彼を見て拜せり、然れども猶疑へる者ありき。イイスス就きて、彼等に語けて曰へり、天に在り地に在る一切の權は我に與へられたり、故に爾等往きて、萬民に教を傳へて、彼等に父と子と聖神との名に因りて洗を授け、彼等を教へて、我が一切爾等に命ぜしことを守らしめよ、視よ、我恒に爾等と偕にして世の終末まで在るなり、「アミン」。

第二の主日の福音經、マルコ七十端。

彼の時安息日過ぎて、マリヤ「マグダリナ」、イアコフの母マリヤ、及びサロミヤ、香料を買ひたり、往きてイイススに擧らん爲なり。七日の首の日甚早く、墓に來る、日の出づる頃なり、相語りて曰へり、誰が我等の爲に石を墓の門より移さん。目を擧げて、石の已に移されたるを見る、蓋其石は甚大なり。彼等墓に入りて、白衣を衣たる少者が右の方に坐せるを見て駭けり。彼は之に謂ふ、駭く勿れ、爾等は十字架に釘せられしナザレトのイイススを尋ぬ、彼は復活して、此に在らず、觀よ、此は彼を置きし處なり。往きて、其門徒及びペトルに語けて言へ、彼は爾等に先だちてガリレヤに往く、爾等彼處に於て彼を見ん、其爾等に言ひしが如しと。婦急ぎ出でて、墓より奔り、戦き且つ驚きて、一言も人に語げざりき、懼れしが故なり。

第三の主日の福音經、マルコ七十一端。

彼の時七日の首の日朝早く、イイスス復活して先づマリヤ「マグダリナ」、即其會て七の魔鬼を逐ひ出しし所の者に現れたり。婦往きて、先に彼と偕に在りし哀み哭ける者に告げたれども、彼等其生きて、之に見られたりと聞きて、信ぜざりき。其後彼等の中の二人が村に往く時、イイスス變りたる容を以て之に途に現れたり。二人返りて、餘の者に告げしに、彼等をも信ぜざりき。卒に十一門徒に其席坐の間に現れて、其信なきと心の頑なるとを責めたり、彼の復活したるを見し者を信ぜざりし故なり。又彼等に謂へり、全世界に往きて、福音を悉くの受造物に傳へよ、信じて洗を受くる者は救はれ、信ぜざる者は罪に定められん。信ざる者には斯の休徴は從はん、我が名に因りて魔鬼を逐ひ出し、新なる方言を言ひ、蛇を操り、毒を飲むとも、彼等を害せざらん、手を病者に按せば、愈ゆるを得ん。主は彼等に語りし後天に升り、神の右に坐せり。彼等は出でて、四方に教を傳へ、主は彼等を相け、之に從ふ休徴を以て其言を固めたり、「アミン」。

主日の早課福音經 一七

主日の早課福音經 一八

第四の主日の福音經、ルカ百十二端。

彼の時七日の首の日、朝甚早く、婦等は備へたる香料を攜へて、墓に來り、他の婦も彼等と偕にせり。石の墓より移されたるを見、入りて、主イイススの屍を見ざりき。之が爲に惑へる時、視よ、輝ける衣を衣たる二人彼等の前に立てり。彼等懼れて、面を地に伏せれば、二人之に謂へり、何ぞ生ける者を死者の中に尋ぬる。彼は此に在らず、乃復活せり、彼が尚ガリレヤに在りし時、如何に爾等に語けて、人の子が罪人の手に付され、十字架に釘せられ、第三日に復活すべきことを云ひしを憶へ。彼等其言を憶ひ起し、墓より歸りて、悉く此を十一門徒及び其餘の者に告げたり。使徒に之を告げたる者は、「マグダリナ」マリヤ、イオアンナ、イアコフの母マリヤ、及び其他彼等と偕に在り

し者なり。使徒は彼等の言を空言と爲して、之を信ぜざりき。然れどもペトル起ちて、墓に趨り行き、俯して、惟裏布の置けるを見、其成りし事を心に異みて歸れり。

第五の主日の福音經、ルカ百十三端。

彼の時ペトル起ちて、墓に趨り行き、俯して、惟裏布の置けるを見、其成りし事を心に異みて歸れり。是の日其中の二人、イエルサリムを去ること約六十小里なるエムマウスと名づくる村に往きしが、互に凡そ此等の有りし事を語れり。語り且論ずる時、イエス親ら近づきて、彼等と偕に行けり。然れども二人の目は捉められて、彼を識らざるを致せり。彼曰へり、爾等は行きて何事をか互に論じ、又何ぞ憂ふる色ある。其一人クレヲパと名づくる者、彼に對へて曰へり、イエルサリムに來りし者の中、爾獨近日其中に成りし事を知らざるか。問ひて曰へり、何の事ぞ。彼等曰へり、イエス ナゾレイ、即神及び衆民の前に行と言とに能力ある預言者たりし者に在りし事、如何に我等の司祭諸長及び有司等が彼を解して、死に定め、十字架に釘せし事なり。我等は嘗て此の人はイズライリを贖ふべき者なりと望めり、然れども此れ皆成りしより今已に第三日なり。然るに又我等の中の或婦等は我等を驚かせり、彼等朝早く墓に在りしが、其屍を見ずして、來りて、天使等の現れて、彼は生くと言ふを見しことを語げたり。我等の中の數人墓に適きしに、果して婦の言ひし如き事を見たり、惟彼を見ざりき。イエス彼等に謂へり、噫無知にして、凡そ諸預言者の言ひし事を信ずるに心の遅き者よ、ハリストスは此くの如く苦を受けて、其光榮に入るべかりしに非ずや。是に於てモイセイより始めて、諸預言者に及ぶまで、凡そ聖書

主日の早課福音經 一九

主日の早課福音經 二〇

に彼を指して載することを彼等に説き明せり。往く所の村に近づきしに、彼は尚遠く行かんとする者の若し。二人彼を留めて曰へり、我等と偕に止れ、蓋時暮れんとし、日已に戻りけり。彼入りて、偕に止れり。席坐せる時、彼餅を取りて、祝福し、撃きて彼等に與へたり。其時二人目啓けて、彼を識れり、而して彼忽見えざりき。彼等互に言へり、途中彼が我等と語り、且我等に聖書を解き明しし時、我等の心我が衷に燃えしに非ずや。即時に起ちて、イエルサリムに歸り、十一門徒及び之と偕に聚れる者に遇へり。僉言ふ、主は實に復活せり、而してシモンに現れたり。二人も亦途中に在りし事、及び如何に其餅を撃く時彼等に識られし事を述べたり。

第六の主日の福音經ルカ百十四端。

彼の時イエス死より復活し、其門徒の中に立ちて曰へり、爾等に平安。彼等驚き且懼れて見る所は神なりと意へり。イエス彼等に謂へり、何ぞ懼れ惑ふ、胡爲れぞ此の意は爾等の心に起れる。我が手我が足を視よ。是我自なり、我に捫りて視よ、蓋神には骨肉なし、其我に有るを見るが如し。此を言ひて、手足を彼等に示せり。彼等喜に因りて、猶未だ信ぜず、且異める時、彼曰へり、此に食ふべき物あるか。彼等は炙りたる魚一片と蜜房とを彼に與へたれば、取りて、彼等の前に食へり。又彼等に謂へり、我猶爾等と偕に在りし時、爾等に語りて、モイセイの律法、諸預言者及び聖詠に、我を指して録されし事、皆應ふべしと云ひしは、乃是なり。其時彼等の智識を啓きて、聖書を悟らしめたり。又彼等に謂へり、斯く録されたり、而して斯くハリストスは苦を受け、第三日に死より復活すべかりき、且其名に因りて、悔改と諸罪の赦とは、イエルサリムより始めて、

ばんみん つた なんじら これら こと しょうしや み われ わ ちち きやく もの
萬民に傳へらるべきなり。爾等は此等の事の證者なり。視よ、我は我が父の許約せし者
を爾等に遣さん、爾等イエエルサリムの城に居りて、上より能力を衣するに迄れ。イ
イス彼等を外に率いて、ワイファニヤに至り、手を舉げて彼等に祝福せり。祝福する時、
彼等を離れ、擧げられて、天に升れり。彼等之を拜し、大に喜びて、イエエルサリムに歸
り、恒に殿に在りて、神を頌美祝讚せり、「アミン」。

第七の主日の福音經イオアン六十三端。

か とき なぬか はじめ ひ あさなおくら はか きた いし はか うつ
彼の時七日の首の日、朝尚味きに、マリヤ「マグダリナ」墓に來りて、石の墓より移さ
れたるを見る。故に趨りて、シモン ペトル及びイイスの愛せし他の門徒に來りて、彼等
に謂ふ、人主を墓より取れり、我等其何處に彼を置きしを知らず。ペトル及び他の門徒出
でて、墓に往けり。二人共に趨りしが、他の門徒はペトルより疾く趨りて、先に墓に來れ
り。俯して、布の置けるを見たれども、入らざりき。シモン ペトル彼に次ぎて來り、墓
に入りて、布の置けるを見、又其首を裹みし巾の、布と共に在

主日の早課福音經 二一

主日の早課福音經 二二

らざ、乃捲きて、別に他の處に置けるを見たり。其時先に墓に來りし他の門徒も入り
て見、而して信ぜり。蓋彼等は未だ其死より復活すべき事の、聖書に載せたるを知らざ
りき。是に於て二の門徒復己の所に歸れり。

第八の主日の福音經イオアン六十四端。

か とき はか そと た な な とき はか ふ ふたり てん し かくい
彼の時マリヤは墓の外に立ちて哭けり。哭く時墓に俯して、二の天使が、白衣にしてイ
イスの屍の置かれし處に、一は首に一は足に坐せるを見る。彼等之に謂ふ、婦よ、何
ぞ哭ける。彼曰く、人我が主を取れり、我其何處に彼を置きしを知らず。此を言ひて、顧
みて、イイスの立てるを見る、然れども其イイスなるを知らざりき。イイス彼に謂
ふ、婦よ、何ぞ哭ける、誰を尋ぬるか。婦は園丁なりと意ひて、之に謂ふ、君よ、若
し爾彼を移ししならば、何處に置きしを我に告げよ、我彼を取らん。イイス之に謂ふ、
マリヤよ、婦顧みて彼に謂ふ、「ラウウワニ」、譯すれば夫子なり。イイス之に謂ふ、我
に捫る勿れ、蓋我未だ我が父に升らざりき、乃往きて、我が兄弟に告げて曰へ、我は
我が父及び爾等の父、我が神及び爾等の神に升ると。マリヤ「マグダリナ」往きて門徒
に己が主を見しこと、及び其彼に之を言ひしことを告げたり。

第九の主日の福音經イオアン六十五端。

か ひ すなわち なぬか はじめ ひ すで く もん と あつ ところ もん じん おそ よ
彼の日即七日の首の日、既に暮れて、門徒の集れる處の門、イウデヤ人を懼るるに因
りて、閉ぢたるに、イイス來りて、中に立ちて、彼等に謂ふ、爾等に平安。此を言ひ
て、彼等に己の手足及び脅を示せり。門徒主を見て喜べり。イイス復彼等に謂へり、
爾等に平安、父が我を遣しし如く、我も亦爾等を遣す。此を言ひて、氣を嘘きて、彼等
に謂ふ、聖神を受けよ。爾等人に其罪を釋さば、則釋さる、人に其罪を留めば、則留
めらる。イイスの來りし時、十二の一なるフォマ、稱してディディムと云ふ者、彼等
と偕に在らざりき。他の門徒彼に謂へり、我等主を見たり。然れども彼は之に謂へり、我若
し其手に釘の迹を見ず、我が指を釘の迹に入れず、我が手を其脅に入れずば、信ぜざらん。
ようか こ もん と またうち あ かれら と もん と きた
八日を越えて、門徒復内に在り、フォマも彼等と偕にせり。門閉ぢたるに、イイス來り
て、彼等の中に立ちて曰へり、爾等に平安。次ぎてフォマに謂ふ、爾の指を此に伸べて、
わ て み なんじ て の わ わき い しん なか すなわちしん きた
我が手を視よ、爾の手を伸べて、我が脅に入れよ、信ぜざる勿れ、乃信ぜよ。フォマ答

へて彼に謂へり、我が主よ、我が神よ。イイスス彼に謂ふ、爾は我を見しに縁りて信ぜり、見ずして信ずる者は福なり。イイススは其門徒の前に於て、亦他の多くの奇蹟、此の書に載せざる者を行へり。此を載せたるは、爾等がイイススは神の子、ハリストスなりと信じ、且信じて、其名

主日の早課福音經 二三

主日の早課福音經 二四

に因りて生命を得ん爲なり。

第十の主日の福音經イオアン六十六端。

彼の時イイスス其門徒にティウェリアダの海濱に現れたり。其現れたること左の如し。シモンペトル、フォマ、稱してディディムと云ふ者、ガリレヤのカナのナファナイル、ゼウェデイの二子、及び他の二人の門徒共に在り。シモンペトル彼等に謂ふ、我往きて漁せん。彼等曰ふ、我等も爾と偕に往かん。出でて、直に舟に登りしが、是の夜は獲る所なかりき。既に明けて、イイスス岸に立てり、然るに門徒は其イイススたるを知らざりき。イイスス彼等に謂ふ、小子よ、爾等に食ふべき物あるか。彼等答へて曰へり、無し。彼は之に謂へり、網を舟の右に施せ、然らば得ん。彼等施ししに、之を擧ぐるこ能はざりき、魚の多き故なり。時にイイススの愛せし所の門徒ペトルに謂ふ、是れ主なり。シモンペトル是れ主なりと聞きて、裸なりしに因りて衣を束ねて、海に投ぜり。他の門徒は舟に乗り、魚の盈てる網を曳きて至れり、蓋地を離ること遠からず、約二百尺なり。地に上りし時、燃えたる火其上に置きたる魚及び餅あるを見る。イイスス彼等に謂ふ、今爾等が獲たる魚數尾を攜へ來れ。シモンペトル往きて、網を地に曳き上げたり、中に大なる魚一百五十三尾盈てり、斯く多しと雖、網は裂げざりき。イイスス彼等に謂ふ、來りて食せよ。門徒一も、爾は誰たると、問ふことを敢てせざりき、其主たるを知ればなり。イイスス前みて、餅を取りて、彼等に與ふ、魚も亦然り。イイススが死より復活して後、其門徒に現れしこと、此れ其三なり。

第十一の主日の福音經イオアン六十七端。

彼の時イイスス死より復活して後、其門徒に現はれて、シモンペトルに謂ふ、イオナの子シモンよ、爾我を愛すること彼等に過ぎたるか。彼曰ふ、主よ、然り、爾は我が爾を愛するを知る。イイスス彼に謂ふ、我が羔を牧せよ。又第二次彼に謂ふ、イオナの子シモンよ、爾我を愛するか。ペトル曰ふ、主よ、然り、爾は我が爾を愛するを知る。イイスス彼に謂ふ、我が羊を牧せよ。第三次彼に謂ふ、イオナの子シモンよ、爾我を愛するか。ペトル第三次に、爾我を愛するかと、謂ひしに因りて、憂ひて、彼に謂へり、主よ、爾は知らざる所なし、爾は我が爾を愛するを知る。イイスス彼に謂ふ、我が羊を牧せよ。我誠に誠に爾に語ぐ、爾少き時に於て、自ら帯を束ねて、欲する所に行けり、老ゆるに及びて、爾の手を伸べん、他人爾を束ねて、爾が欲せざる所に曳かん。此を言ひしは、ペトルが若何なる死を以て、神を榮せんとするを示せるなり。言ひ竟りて、又彼に謂ふ、我に従へ。ペトル顧みて、イイススの愛せし所の門徒の後に従ふを見る、即晚餐の時、イイススの胸に倚りて、主よ、

主日の早課福音經 二五

主日の早課福音經 二六

爾を賣る者は誰ぞと、云ひし者なり。ペトル彼を見て、イイススに謂ふ、主よ斯の人は如何

に。イイススかれ い われ も かれ そんな わ きた ま ほつ なんじ なん あずか
に。彼に謂ふ、我若し彼が存して、我が来るを待つことを欲せば、爾と何ぞ與
らん、爾我に従へ。是に於て此の言は兄弟の間に散じて、此の門徒は死せざらんと
言へり。然れどもイイススはかれ し かに、死せざらんと言ひしに非ず、乃我若し彼が存して、我が來
るを待つことを欲せば、爾と何ぞ與からんと、言ひしなり。此等の事を證し、且之を書
しし者は、即此の門徒なり、我等は彼の證の眞なるを知る。イイススのおこな
こと、た
またおお たも も いちいちこれ しる われおも そのしよ よ の た
に亦多く有り、若し一之を書さば、我意ふ、其書は世載するに勝へざらん、「アミン」。